

1. 地区の概況

図1 地区の位置

*地形図は国土地理院 基盤地図情報(数値標高モデル)5mメッシュにより作成

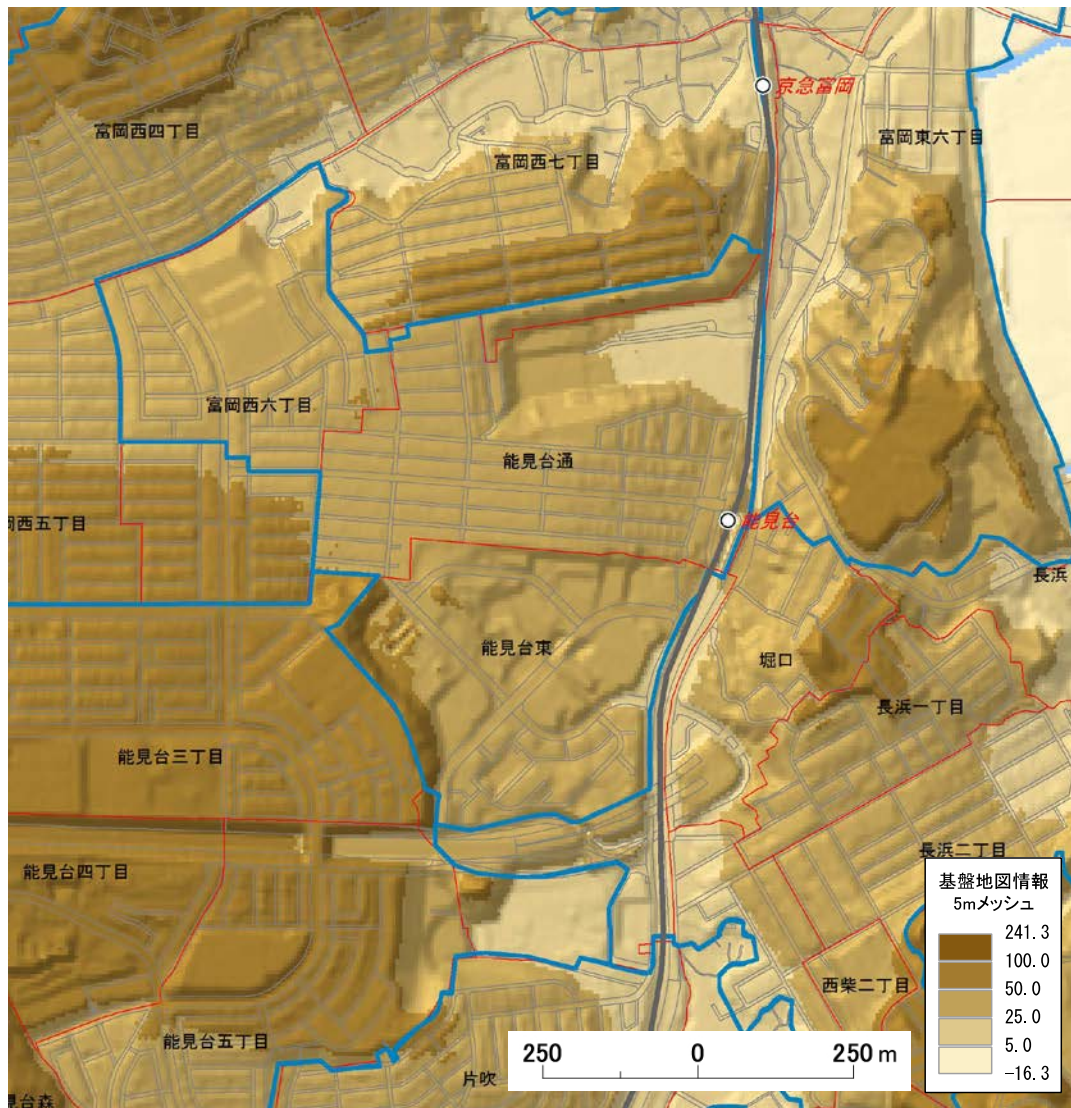


表1 人口、世帯数、年齢別人口等の動向

	平成20	平成25	平成30	平成20 ～25年	平成25 ～30年	平成25 年比率	平成30 年比率	平成30年 区平均	平成30年 市平均
人口 (人)	9,925	9,405	9,191	▲ 520	▲ 214	100.0	100.0	100.0	100.0
0～14歳人口 (人)	1,531	1,233	1,055	▲ 298	▲ 178	13.1	11.5	11.6	12.4
（内0～5歳） (人)	605	407	403	▲ 198	▲ 4	4.3	4.4	4.1	4.7
15～64歳人口 (人)	6,658	6,098	5,735	▲ 560	▲ 363	64.8	62.4	59.5	63.4
（内20～24歳） (人)	478	446	464	▲ 32	18	4.7	5.0	5.3	5.3
（内25～39歳） (人)	2,082	1,525	1,226	▲ 557	▲ 299	16.2	13.3	15.1	17.8
65歳以上人口 (人)	1,818	2,074	2,401	256	327	22.1	26.1	28.9	24.2
（内65～74歳） (人)	990	1,028	1,141	38	113	10.9	12.4	14.8	12.1
（内75歳以上） (人)	828	1,046	1,260	218	214	11.1	13.7	14.1	12.1
世帯数 (世帯)	4,262	4,139	4,187	▲ 123	48				
平均世帯規模 (人/世帯)	2.33	2.27	2.20					2.29	2.10

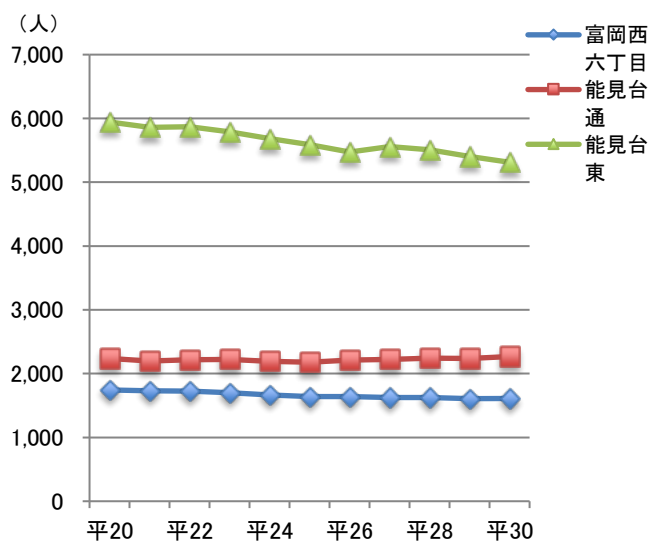
*「町別世帯と人口」、「町別年齢別男女別人口」による。各年9月末現在

*人口等の統計データは町丁目を単位に集計されたデータを活用しています。

*町丁目の境界線が複数の区域にわたる場合は、町丁目の区域を単位としていずれかの区域に含まれるものとして集計しました。

2. 町丁別人口世帯の動向 *「町丁別世帯と男女別人口」による。各年9月末現在

図2 町丁別人口の動向



富岡西・能見台地区には、平成30年9月現在約9,190人が暮らしています。世帯数は約4,190世帯、平均世帯規模は2.20人/世帯です。(表1参照)

平成25～30年の期間で見ると、人口は減少が続いていますが、減少傾向は弱くなりました。世帯数は現象がゆるやかな増加に変わりました。

世帯規模は縮小する傾向が続いています。平成30年の平均世帯規模は市の平均(2.10人/世帯)を上回り、金沢区の平均(2.29人/世帯)よりやや小さい規模になっています。(表1参照)

平成29年時点の65歳以上の人口比率(高齢化率)は、25.3%で市平均(23.8%)に近い水準で、区の平均(28.2%)を下回っています。5年間で5.2%上昇しました。

0～14歳の人口(年少人口)、15～64歳の人口(生産年齢人口)の減少が続いており、比率も低下する傾向があります。生産年齢人口の減少傾向は、平成20～25年の期間に比べて弱くなっています。(表1参照)

富岡西・能見台地区には3町丁が含まれています。地区の南側に位置する能見台東で、人口、世帯数ともに緩やかな減少傾向になっています。

世帯規模はわずかに小さくなる程度でほぼ安定しています。(図2,3参照)

富岡西六丁目、能見台通は人口、世帯数ともほぼ安定しています。(図2,3参照)

世帯規模は、いずれの町丁ともゆるやかに縮小する傾向が続いています。

富岡西六丁目は平均世帯規模が最も大きく平成30年時点で約2.30人/世帯で規模の縮小傾向が強くなっています。一方、能見台通は平均的世帯規模が最も小さく平成30年時点で1.96人/世帯になっています。(図4参照)

図3 町丁別世帯数の動向

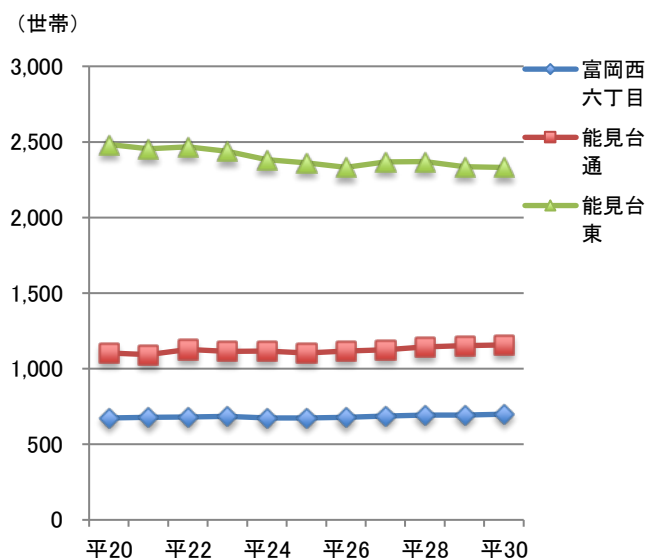
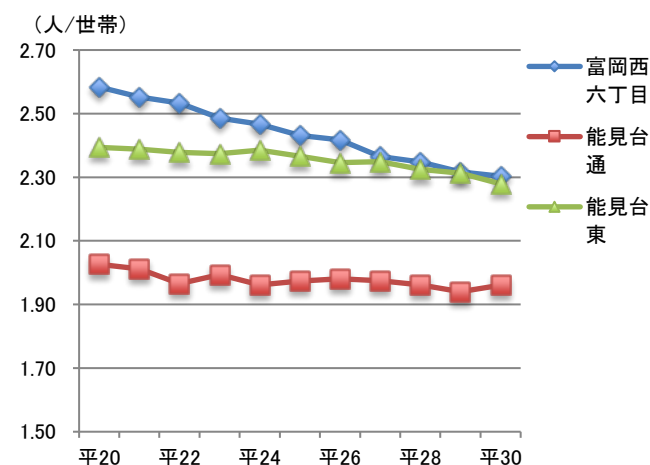


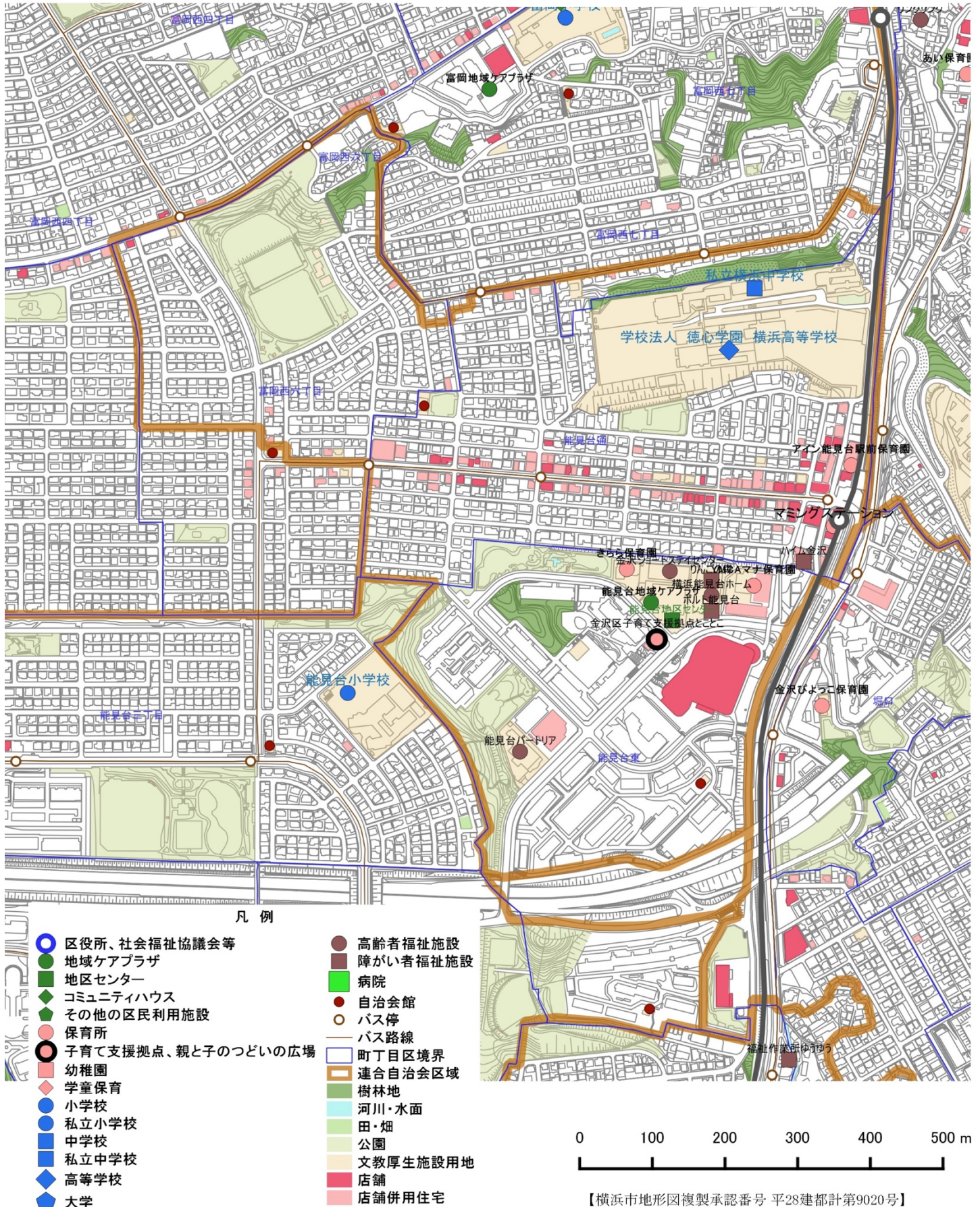
図4 町丁別平均世帯規模の動向



3. 地域の施設等の分布状況

図5 地域の施設等の分布状況

*土地利用現況、建物用途現況は、横浜市都市計画基礎調査結果による。
 *施設の位置は、金沢区オープンデータ等による。



4. 年齢別人口と人口移動

*年齢別人口は「町丁別年齢別男女別人口」による。各年9月末現在
 *移動人口は平成13～28年の人口移動集計結果による

図6 年齢5歳別の人口の変化

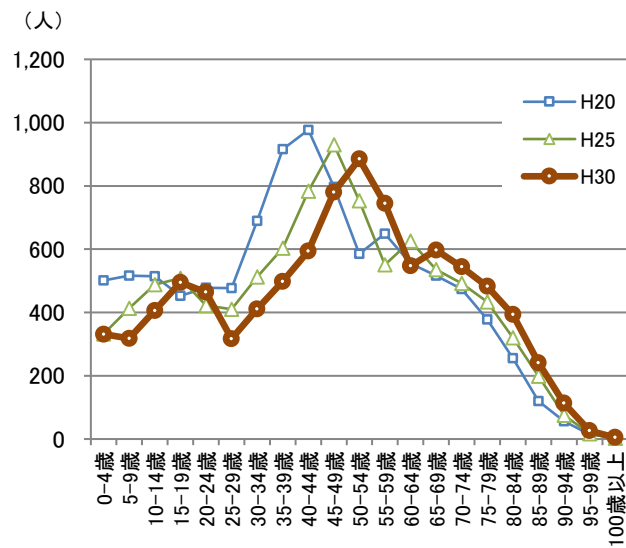
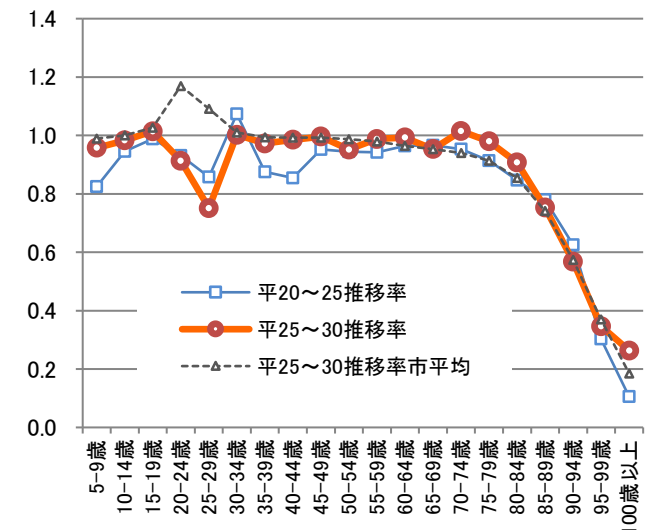
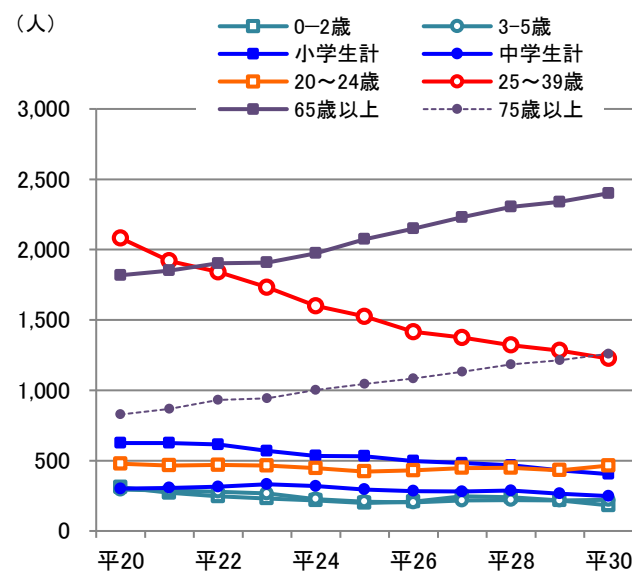


図7 年齢5歳別の人口の推移率



*推移率: 上記の場合は、年齢5歳階級人口の各階級の人口が、死亡、転出入によって5年後に1階級高齢の人口になる割合

図8 年齢別人口の変化



平成30年時点の年齢5歳別人口は、45～49歳を中心に前後の50～54歳に大きなピークのある構成になっています。(図6参照)

平成13～17年にかけて大きな転入があり、この時期に転入した当時30歳代がこのピークを作っていることがわかります。(図6, 8, 9, 10参照)

平成13～17年の大きな転入増加により人口も増加しました。しかし平成20年以降は、人口が減少する傾向に変わっています。

(図9参照)

図9 人口移動の動向

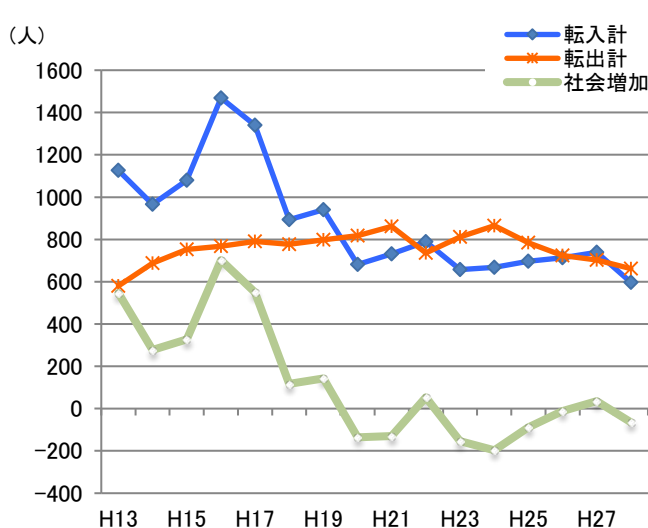
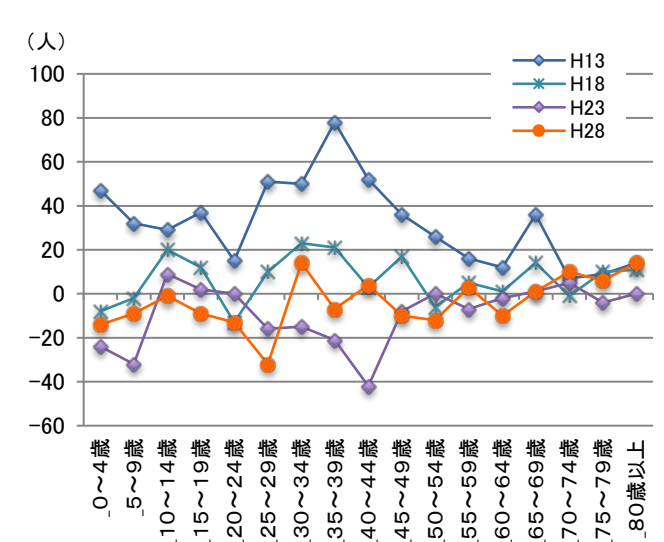


図10 年齢5歳別社会移動人口の動向



5. 世帯の状況と居住歴

*各年「国勢調査」結果による

図 11 6歳未満の子どもがいる世帯の動向

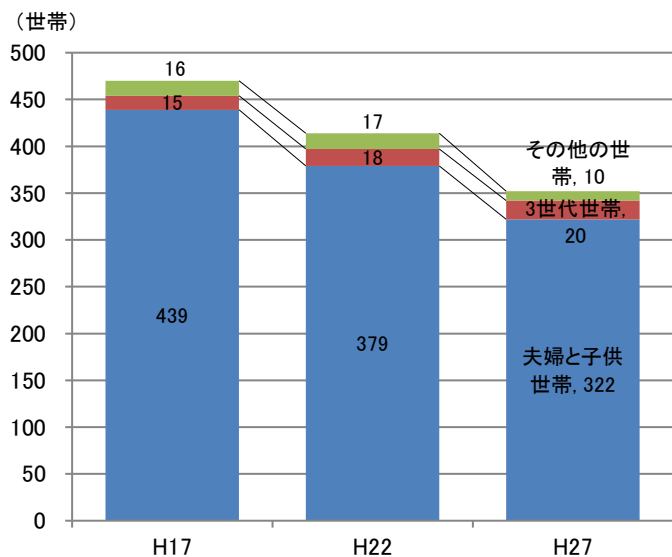


図 12 65歳以上の高齢者がいる世帯の動向

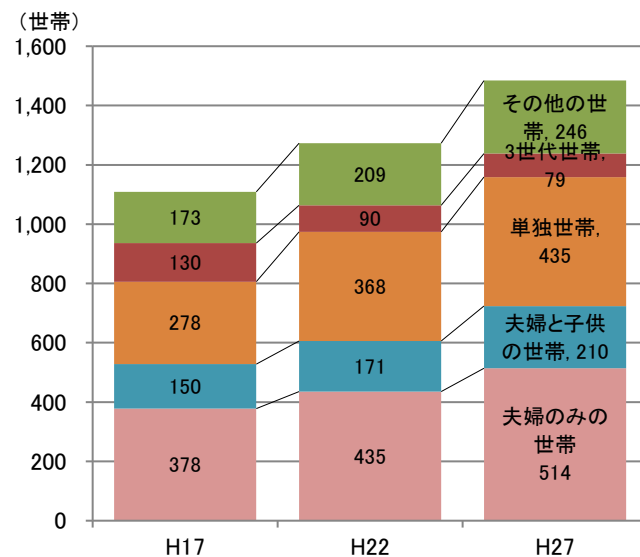


図 13 住宅の所有関係別の世帯の動向

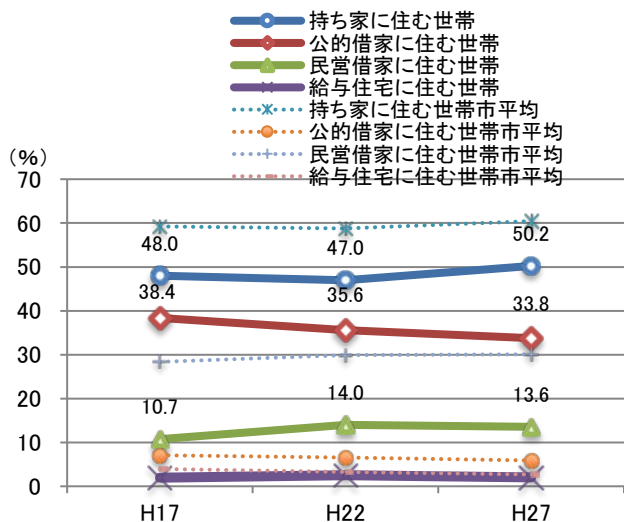


図 14 住宅の建て方別の世帯の割合

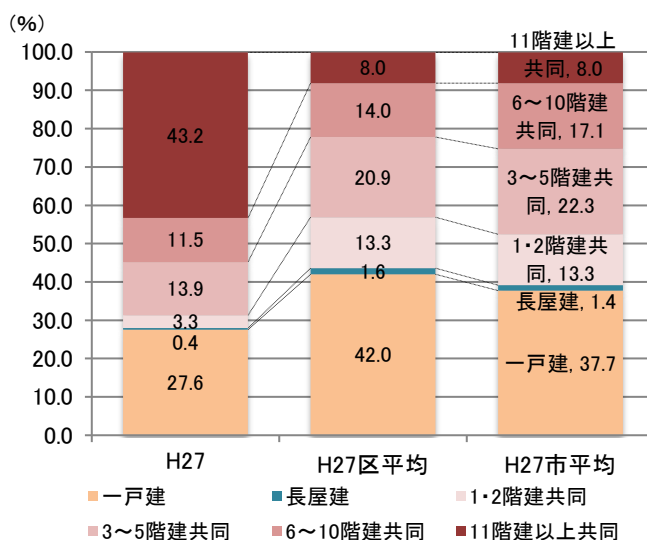


図 15 規模別世帯の動向

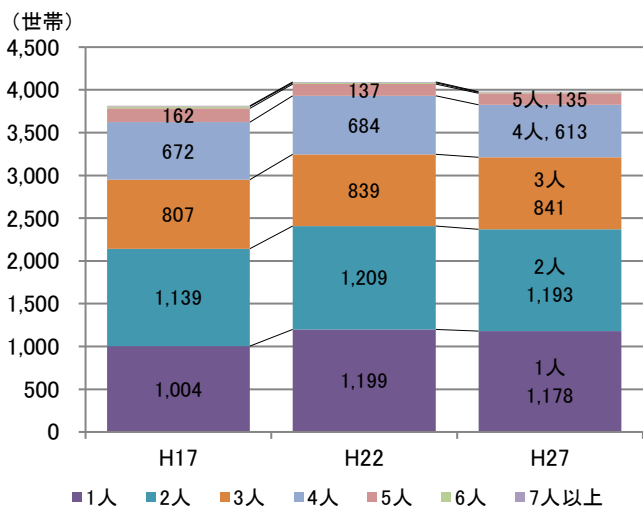
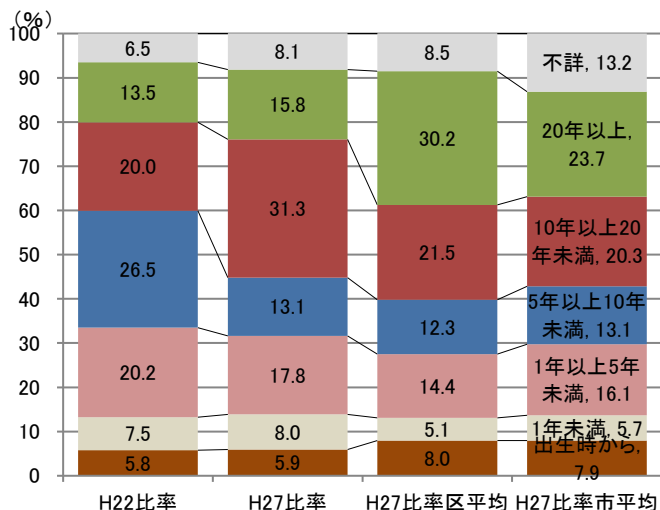


図 16 居住歴別人口の割合



6. 65歳以上の高齢者のいる世帯、要介護認定者数

表2 高齢者のいる世帯の状況 (H31)

	高齢独居世帯数 (男性高齢者)	高齢独居世帯数 (女性高齢者)	高齢者のみ世帯数 (単身世帯除く)	高齢者を含む世帯数 (高齢者と高齢者以外で構成)
世帯数(世帯)	136	367	337	647
対世帯総数比率(%)	3.2 (区平均 4.8)	8.7 (区平均 11.7)	8.0 (区平均 14.3)	15.3 (区平均 26.9)
対高齢者のいる世帯数比率(%)	21.0 (区平均 17.9)	56.7 (区平均 43.4)	52.1 (区平均 53.2)	100.0

*横浜市資料による。2019年3月時点。世帯数は住民基本台帳による

*高齢独居世帯は65歳以上の方1名で構成される世帯

*高齢者のみ世帯は、65歳以上の方のみで構成される2名以上の世帯

*高齢者を含む世帯は、65歳以上の方と、65歳未満の方で構成される2名以上の世帯

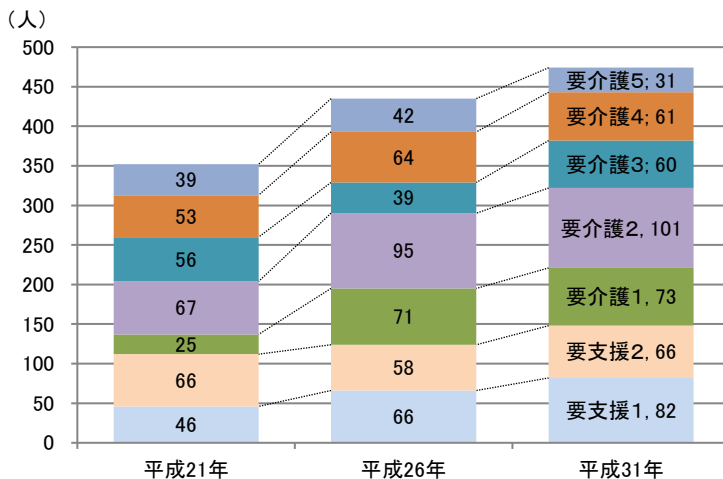
表3 要介護認定者数 (H31)

	計	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
要介護認定者数(人)	474	82	66	73	101	60	61	31
人口比(%)	5.14	0.89	0.72	0.79	1.10	0.65	0.66	0.34
人口比区平均(%)	4.70	0.73	0.64	0.74	1.00	0.61	0.58	0.40
要介護認定者総数比(%)	100.00	17.30	13.92	15.40	21.31	12.66	12.87	6.54
区平均(%)	100.00	15.46	13.69	15.82	21.31	12.93	12.34	8.45

*要介護認定者数は、金沢区資料による。平成31年3月末時点

*地区別人口は、「町丁別の人口(住民基本台帳による)」により集計。平成31年3月末時点

図17 要介護認定者数の動向



*各年、要介護度別認定者数は金沢区資料による。

7. 地区の特徴と動向

富岡西・能見台地区は、計画的に開発整備が進められた住宅地です。地区の東側は京急線に接し、能見台駅があります。

居住世帯の約72%が共同住宅に住んでいます。中でも11階以上の高層の共同住宅に住む世帯が多く約43%を占めています。戸建て住宅に住む世帯は約28%です。(図14参照)

持家に住む世帯は約50%です。民間の借家に住む世帯は約14%です。公的な借家に住む世帯が約34%と多いのが特徴です。(図13参照)

比較的新しく開発された能見台東に住む人の割合が多く、転出入も活発なため、居住期間が比較的短い人が多くなっています。平成27年時点で、「10年～20年未満」は約31%です。「20年以上」は約16%です。

(図16参照)

平成17年以降、6歳未満の子供のいる世帯は減少が続いています。(図11参照)

平成27年時点では、6歳未満の子供のいる世帯(約352世帯)は、世帯総数(約3,980世帯)の約9%です(区平均は約8%)。このうち約92%が核家族になっています。(図11参照)

平成17年以降、65歳以上の高齢者のいる世帯数は増加する傾向にあります。高齢者の単独世帯や夫婦のみの世帯の増加が目立ちます。

平成27年で65歳以上の高齢者のいる世帯(約1,480世帯)は世帯総数の約37%です(区平均は約32%)。65歳以上の高齢者のいる世帯のうち、約35%が高齢者の夫婦のみの世帯、約29%が高齢者の単独世帯です。これら高齢者だけで暮らしている世帯は、高齢者のいる世帯全体の約64%を占めています。(図12参照)

平成29年時点の高齢者のいる世帯の比率は約40%で区の平均(約43%)を下回っています。(表2参照)

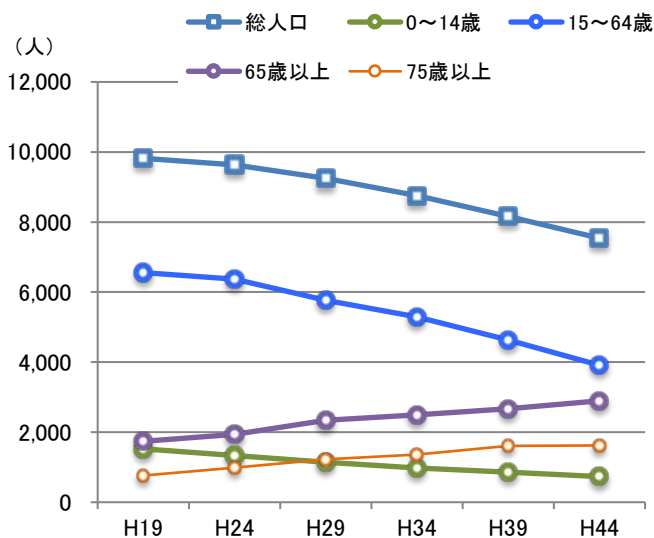
また、要介護認定者の人口比率は約4.9%で、区の平均(約4.7%)を上回っています。(表3参照)

平成27年の年齢別の推移率をみると、70～74歳以外のすべての年齢層で転出減少(または死亡)の傾向があることがわかります。(図7参照)

現在の年齢別人口の変化の傾向が続くと、生産年齢人口の減少、年少人口の減少傾向が続き、結果的に人口減少と高齢化が急速に進むと考えられます。

(図18, 19参照)

図18 人口の動向と推計



*平成24～29年の年齢5歳別人口の変化の傾向が続くものとして推計した値です。

*平成34年以降が推計値です。

図19 人口の動向と推計 年齢別比率

